

令和6年

1月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0897) 57-9122

【天気予報及び概況】

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。

降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)
2021年	5.6	9.0	2.4	47.0
2022年	5.1	8.7	1.6	23.5
2023年	5.8	9.6	1.9	46.5
1991~2020年	5.9	9.3	2.6	44.9

※気温については、1ヶ月の平均値(気象庁)

【作物】

麦(裸麦・小麦)

1 土入れ

土入れは倒伏防止、無効分げつの抑制、根際の乾燥防止、雑草抑制に効果があります。本葉3~4葉期頃から茎立ち期(2月)までの間で、土が乾いている時に3回ほど実施してください。

2 麦踏み

麦踏みは根の浮き上がり防止、徒長防止、倒伏防止、根張り促進に効果があります。土入れ作業後に、土が乾いている時に実施してください。麦踏みの後に土入れをすると折れた茎葉を覆土し、生育障害を招く恐れがありますので、必ず土入れ作業後に麦踏みを行うようにしてください。

3 排水対策の徹底

湿害防止のため、排水溝の溝さらえをしっかりと行って排水の促進に努めてください。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、水が排出されるようにしてください。

4 中間追肥

ドリル播栽培および全面全層播栽培で生育の悪いときは、分げつと生育促進のため1月下旬までに、生育状況にあわせて窒素成分で1.5~2kg/10aの追肥を行ってください。 <桐野>

【野菜】

1 さといも

(1) 3年輪作の実施

水稻・やまのいもの輪作で疫病や土壌病害(乾腐病・軟腐病)、センチュウ類の密度を抑えてください。

(2) 圃場菌密度低減の実施

収穫したときに発生する残さは、速やかにロータリー耕で破碎し、土中に埋没し分解してください。

(3) 土づくり対策

ア 年内に完熟堆肥の投入を終了し、深耕して土壌になじませてください。

イ 堆肥の施用が少ない場合は「アヅミン」を40kg/10a施用してください。

ウ 輪作年限が短い圃場では「石灰窒素」を40~60kg/10aを植え付け前30日前までに施用してください。

① 農薬効果 殺虫・殺菌・除草

② 肥料効果 窒素肥料・カルシウムの補給

③ 土づくり効果 有機物の腐熟促進、土壌のアルカリ化

【石灰窒素は肥料となりますので、基肥、石灰資材は減量してください】

エ 品質向上・増収のため「亜りん酸粒状1号」を10kg/10a施用してください。

「発根を促進し根群が充実することで、初期生育が向上」

オ 冬季に土壌を乾燥させた場合、地力窒素の発現【乾土効果】が期待されます。

「植付期まで土壌の乾燥と雑草抑制の耕運作業」

2 タマネギ

冬期は、地上部(葉数・葉重)の生育に変化は見られませんが、地下部(根の伸長)は発育しています。根の発達に、追肥は大切な作業となります。

時期は、早生系で1月上旬頃、中晩生系では1月中旬頃、化成444を40kg/10a施用してください。

3 ソラマメ

今月は、収量アップ、3粒莢率向上、害虫防除のための管理が必要です。

1月頃には目標の側枝4~6本を選び、必要のない枝や次々に出てくる細い枝は順次除去します。また、誘引する場合は、誘引紐で茎を挟むように張ることで倒伏しにくくなります。

害虫については、アブラムシによるウイルス病の感染に注意してください。

発生を確認した場合は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍、又はスミチオン乳剤1,000~2,000倍で防除してください。 <可部>

【果樹】

1 甘平

甘平の成熟期は2月上旬頃で、糖度が高まり酸が低下した果実の収穫が原則です。

収穫が早い場合は、糖度が低く酸高の恐れがありますので注意してください。また、果梗部周辺の着色遅延の程度が甚だしいほど、糖度が低く食味が劣る傾向がありますので、着色が進んだ果実から収穫するなど分割採取を行います。但し、低温(氷点下)による寒害などが予想される場合は、その前に収穫を行ってください。

収穫した果実はしおれやすいので、裸果の状態でも長時間放置せず、コンテナ内の果実を新聞紙で包み込むなどの対応が必要です。減酸のために貯蔵する場合は、3~4%の減量(予措)後、ポリ個装し、開口部を半折りにして密封しないでください。

2 不知火

不知火は、収穫時期が遅い程、糖度が高まり食味が向上しますが、一方で水腐れなどの果皮障害の発生が増加し、また寒害などの気象災害を受けやすくなります。立地条件を考慮して、果皮障害が多発する前には収穫を開始してください(貯蔵による減酸を考慮すると、収穫開始の酸の目安は1.5%以下です)。

収穫した果実は、3~5%減量を目安にゆっくり(3週間程度)予措し、その後の貯蔵は、温度6~8℃、湿度80~90%の条件下で行います。乾燥や過湿による貯蔵障害(コハン症、ヤケ等)の発生を抑制するために、コンテナ内の果実を新聞紙で包み込むか、長期に貯蔵する場合はポリ個装を行うなど貯蔵期間に応じた処理を行ってください。

3 伊予柑

貯蔵は、適正入庫量(0.8~1.0t/坪)を厳守し、貯蔵庫内の空気の循環に配慮してください。階級別に区分貯蔵し、ス上がりしやすい大玉果(3L以上)は短期貯蔵とします。貯蔵条件の目安は、短期貯蔵で温度8~9℃・湿度85%、長期貯蔵で温度6~8℃・湿度80~85%です。 <可部>

【花き・花木】

1 シキミ(越冬害虫防除)

マシン油乳剤を規定の希釈倍数(アタックオイル100倍)で散布します。越冬害虫を防除し、発芽期のダニ類の発生を抑えます。

2 ラナンキュラス(球根養成栽培)

元肥(ようりん60kg/10a、苦土石灰100~120kg/10a)の施肥と、畝立て(畝幅120~130cm)を行ってください。

定植は、株間と条間はそれぞれ10cmで、1株2~3本植え(5~7万本/10a)とし、密植を避けます。

定植30日後(根が活着したところ)、土寄せを行いながら、くみあい化成2号60kg/10a(窒素成分5.4kg/10a)の追肥を行ってください。

3 アネモネ

追肥は、本葉が2、3枚見えはじめてから行います。くみあい化成2号50kg/10a(窒素成分4.5kg/10a)の追肥を行ってください。 <佐津間>

【畜産】

「一年の計は元旦にあり」と言うように、今年一年の計画を立てるに当たり、まずは昨年1年間の経営成果である作業管理記録と簿記の2つについて整理し、その上で計画に活用しましょう。

1 作業管理記録の取りまとめ

日々の家畜の繁殖や肥育等、ステージ別の作業管理記録や健康状態・疾病発生・投薬等の飼養衛生管理基準を記録している内容を集計・分析することにより、技術的な問題点を洗い出して飼養管理の改善に役立てましょう。

2 所得税および消費税の確定申告の準備

昨年1年間の経営収支を取りまとめ、確定申告に備える時期がやってきました。経営内容を計数的に把握し、コスト低減と収益向上を目指しましょう。

3 白色申告の方は青色申告を

青色申告の主なメリットとして、

・青色事業専従者給与の経費算入(家族労力でも必要経費となります)

・青色申告特別控除55万円(電子帳簿保存の実施、又はe-Taxで確定申告書、貸借対照表、損益計算書を提出する場合は65万円)

・赤字決算額の繰越し控除(翌年以降3年間(法人は10年間)、赤字額を繰越し通算し収益額を減額できます)等の特例があります。

3月15日までに税務署に「青色申告承認申請書」を届け出ると翌年の申告から青色申告となります。

4 消費税のインボイス制度への移行に当たっての事業者支援策(税制措置)

・課税転換する免税事業者の税負担を売上税額の2割に軽減(R8年10月まで)

・1万円未満の少額取引に係る事務負担軽減策を措置(R11年10月まで)

・免税事業者から仕入れた場合でも8割の仕入税額控除が可能(R8年10月まで)

<平野>